

2012年6月10日

安房普及だより

〒294-0045 千葉県館山市北条402-1 TEL:0470-22-8132 FAX:0470-22-0097
 ホームページアドレス <http://www.pref.chiba.lg.jp/ap-awa/index.html>
 発行:安房農業事務所改良普及課・安房農林業振興協議会普及事業部会



暖房コストや労力不足に悩む人にはズッキーニがオススメ！

秋～冬の
ズッキーニ栽培！

★栽培期間4カ月、労働時間500時間以下、販売金額100万円を目標に推進しているズッキーニについて紹介します★

☆秋冬野菜としての魅力

温暖な安房地域では、無暖房のハウス内で12月末まで収穫可能です（は種8月末、定植9月上旬、収穫開始10月上旬）。

☆労働時間が少ない

10aあたりの労働時間は493時間と少なく、受粉作業にミツバチを導入すればさらに150時間程度削減できます。

☆諸経費も少ない

支柱の確保が課題ですが、10aあたりの生産及び出荷経費は31万円程度です（市場販売金額は100万円が目標）。

なお、栽培方法には工夫が必要ですので、必ず安房農業事務所改良普及課までご相談ください。

稲こうじ病にご注意を！

平成19年度から「稲こうじ病」に対する農産物の検査内容が変更され、黒い塊（厚膜胞子）等が混入した場合、『規格外』としての取扱いになりました。あらかじめ防除対策を講じ、未然に発生及び混入を防ぐ必要があります。

常発地では、前年にほ場に落下した厚膜胞子や菌核（菌糸のかたまり）が第一次伝染源となります。これが越冬するため毎年発生します。

発生しやすい条件

穂ばらみ期が低温の場合と、窒素肥料が遅効きした場合に発生が多くなります。

稲こうじ病の防除薬剤

いずれの薬剤も「予防効果」しかありません。感染するのは出穂10日前頃なので、いずれの薬剤も穂ばらみ期までに散布が必要です。出穂後、籾に厚膜胞子が見られてからでは防除手段はありません。

表 稲こうじ病の主な防除薬剤（平成24年5月1日現在）

薬剤名	散布量（希釈倍率）	登録上の使用時期	使用回数
撒粉ボルドー粉剤DL	3～4kg/10a	出穂10日前まで	—
Zボルドー粉剤DL	3～4kg/10a	出穂10日前まで	—
ブラシフロアブル	60～150 l /10a(1,000倍)	収穫21日前まで	2回以内
ブラシ粉剤DL	4kg/10a	収穫21日前まで	2回以内
モンガリット粒剤	3～4kg/10a	収穫45日前まで	2回以内
ラテラ粉剤DL	3～4kg/10a	収穫14日前まで	3回以内

※撒粉ボルドー粉剤DL、Zボルドー粉剤DLは効果が最も高いが薬害が出やすいので、適期散布し、ドリフトに注意します。

苗半作！イチゴの健全苗を作りましょう

イチゴの重要病害である炭疽病や萎黄病は育苗中に感染し、発生すると全滅する恐れがあります。そこで、管理がしやすく一般的な高設ポット育苗の健康な苗作りのポイントを御紹介します。

①育苗設備

親株は病気に感染していないフリー苗を購入し、育苗資材はよく消毒します。ポットは直径12cmの黒ポットに採苗し、夏の暑い時期はハウスに寒冷紗をかけます。泥はねや高湿度で病気は蔓延するため、シートや循環扇を使い、台を設置して苗を地面から離します。管理に作業台車を用いる場合は約20～40cm、立つて作業する場合は約60～80cmくらいの高さにと作業性が良いです。

また、灌水による泥はねを

防ぐために、底面給水マットや灌水チューブを設置します。

②施肥

株あたり窒素成分で元肥150mg、追肥80～100mgを施用します。追肥の時期は活着後を目安としますが、8月上旬には施用を打ち切ります。

③薬剤散布

ベルクトフロアブルやゲッター水和剤を用いて炭疽病の予防散布をします。炭疽病や萎黄病が発生した場合は速やかに抜き取ってほ場外へ持ち出し、ベンレート水和剤でかん注消毒を行います。

④定植

品種にもよりますが、9月上旬～中旬に行います。苗は本葉2.5～3.0枚のそろった若苗を用いて、老化苗や小さすぎる苗は避けます。

※農薬の使用にあたっては、ラベルをよく読み、登録内容を確認してから使用してください。

若手女性農業者グループ

「ひだまり」の紹介

若手女性農業者は地域に点在しており農業に加えて、家事・育児と忙しいため、交流の機会が少ないのが現状です。そこで、農業事務所改良普及課では平成21年度より若手女性農業者を対象に農業と農家生活を学ぶセミナーを開催しました。

平成23年2月にはセミナーの有志で「ひだまり」グループを結成しました。

当事務所では、「ひだまり」のメンバーを中心として、引き続き若手女性農業者セミナーを開催し、さらなる技術の向上を図っています。セミナーには子連れで参加し、楽しく情報交換や知識の習得に励んでいます。

昨年8月には会員が企画し、海匠の若手女性農業者グループ「いろは」との交流会、12

月には会員同士の情報交換会を実施しました。今後は会員のほ場視察を計画しています。新規会員も募集中なので、興味のある方は当事務所改良普及課まで御連絡ください。



生活技術勉強会の様子

快適な牛舎を目指して
〜今から始める暑熱対策〜

まだ気温が高くならないこの時期に、牛舎内の扇風機の配置を見直してみませんか。昨年の5〜7月にかけて管

内5戸の酪農家で牛床ごとの風速を調査しました。牛の頭側と尻側のそれぞれで風速を測定し、牛舎全体の状況を一目で見られるよう図にしました。風速は間欠風で1.0〜1.5 m

／秒が最適値の目安で、風速1 m／秒で体感温度が6℃下がるといふ報告もあります。風速1 m未満の場所に色をつけていくと一目で牛舎内の風が滞る位置が分かります。下図は調査した中でも優良だった酪農家の結果です。色つきの部分がありますが、牛舎全体で風が流れ、牛の間に入ってもそれほど暑さを感じません。調査に入った牛舎の中には、扇風機の台数は充分にも関わらず、ほとんどの牛床に色がつく事例もありました。扇風機の配置や角度によって牛床の快適性は大きく変わります。せっかくある扇風機、最大限有効に使いましょう。調査で用いたハンディタイプの風速計はその場で簡単に

風速が測定できます。風速計は安房農業事務所改良普及課、南部家畜診療所にありますので、お気軽に御相談ください。

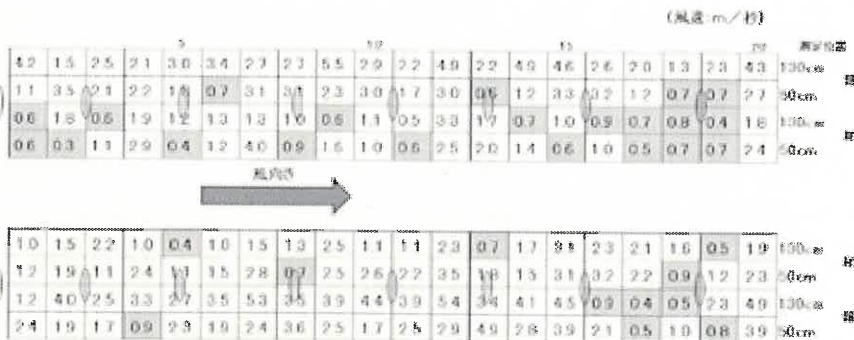


図 牛舎内風速測定結果 (優良事例) ○:扇風機の配置



次世代の為に

株式会社 岡本農園

(岡本秀和さん)

私は南房総市三坂で水稻、水稻育苗、いちご、パッションフルーツ、アテモヤ、チェリモヤ、ブルーベリーなど合計約26haを経営しています。

平成12年6月に家業を継ぐ形で就農しました。それ以来、周囲の大先輩農家の方々に、現実の農業に関する様々なことを実体験をもって学ばせていただいております。

経営面積の拡大に伴い、従来の家族経営の形に限界を感じ、昨年3月に株式会社岡本農園を設立し、代表取締役になりました。法人化の目的は2つあります。

ひとつは、これまで地域の方々が支え、守ってきた大切な農地を個人ではなく、法人が管理することで耕作者を安定させることです。農地が農地として存続している時間を

考えれば、農業者一人の一生はとても短いものです。

そしてもうひとつは、後継者育成の母体となることです。

私もまだ就農して12年あまりの経験しかありませんが、一人前の農業者になるには非常に長い時間がかかることがわかってきました。出身が農家・非農家を問わず、能力を発揮できる場を提供したいと思っています。

今後、先人から受け継いだこの素晴らしい地域を、より良いかたちで次世代に繋ぐ方法を考えて行きたいと思えます。

※今回の記事はご本人に執筆していただきました。



岡本 秀和さん

食用ナバナ新規栽培者等を対象に研修会を開催します

定年帰農者や栽培経験の短い方、将来ナバナ栽培を行いたい方等を対象として研修会を開催します。

管内の実践者等を講師に、ほ場検討会や出荷調整方法等についての実習も行います。ご興味のある方は、担当(堀江)までご連絡ください。

安房農業事務所改良普及課

職員22名の紹介

- 改良普及課長 小倉 哲也
- 主席普及指導員 小林 寛子
- 館山グループ
 - 山田 博 グループリーダー
 - 堀江 英夫(担当) 野菜・作物
 - 加藤 美紀 (担当) 花き
 - 吉田 明広(担当) 果樹・畜産
 - 山本 大樹 (担当) 野菜
 - 林 聖麗 (担当) 花き
- 鴨川グループ
 - 石川 浩司 グループリーダー
 - 川名 瑞枝 (担当) 生活

安房農業事務所 改良普及課案内図



改良普及課は館山市役所通り沿いにある安房合同庁舎3Fにあります。

- 高橋 京子(担当) 作物・果樹
- 南 貴之(担当) 野菜・花き
- 中原 祐樹 (担当) 畜産
- 南房総・鋸南グループ
 - 宮原 秀一 グループリーダー
 - 金子 貴一 (担当) 畜産
 - 田中 千華 (担当) 花き
 - 影山 浩司 (担当) 果樹
 - 所 正人 (担当) 作物
 - 安田 直登 (担当) 野菜
 - 竹内真紗子 (担当) 花き
 - 白井 温 (担当) 花き
 - 吉田 伊織 (担当) 野菜